

周南公立大学SDGs・ダイバーシティ・インクルージョン推進グループ×SDGsアンバサダー

昨年の地域共創センター横花壇を活用したへちま栽培に続き、第二弾目のSDGs推進活動



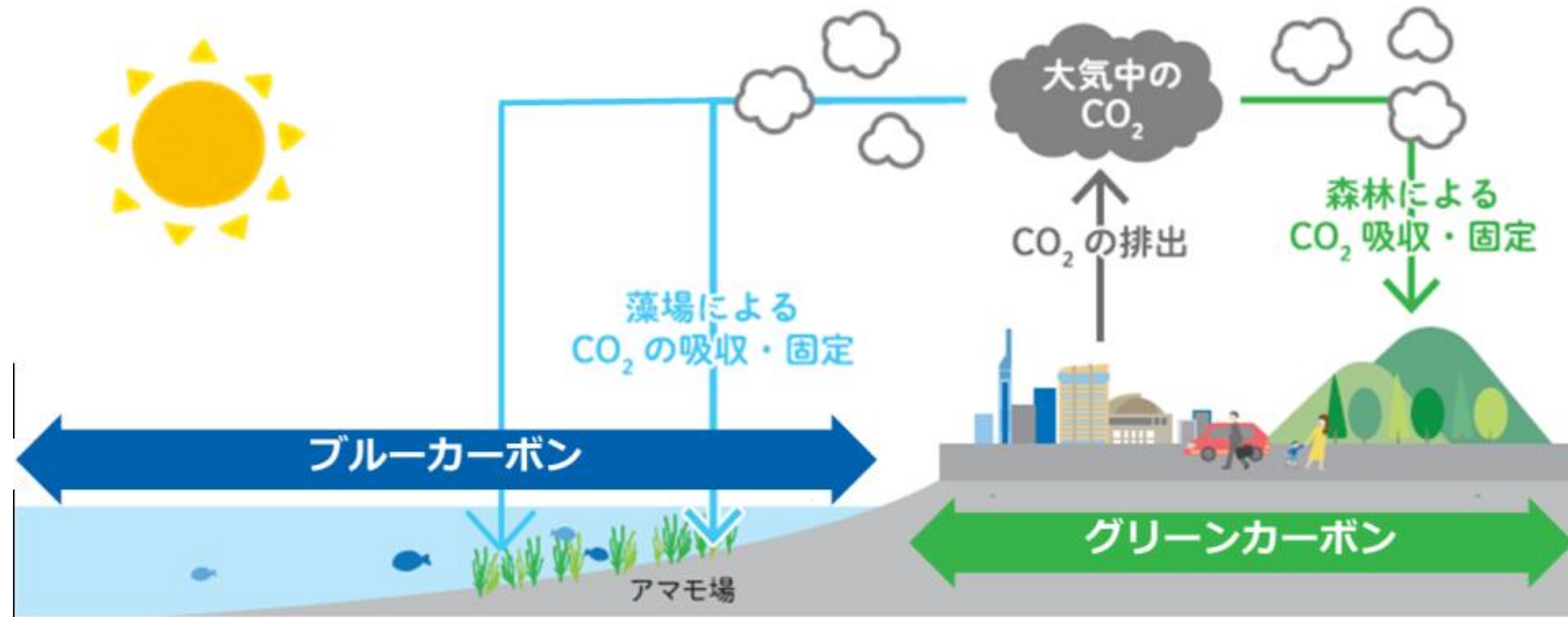
ブルーベリーカーボンプロジェクト

周南公立大学SDGsアンバサダー×学生団体がくまち×地域連携

ブルーベリーカーボンプロジェクト/学生チームリーダー 廣瀬彩乃

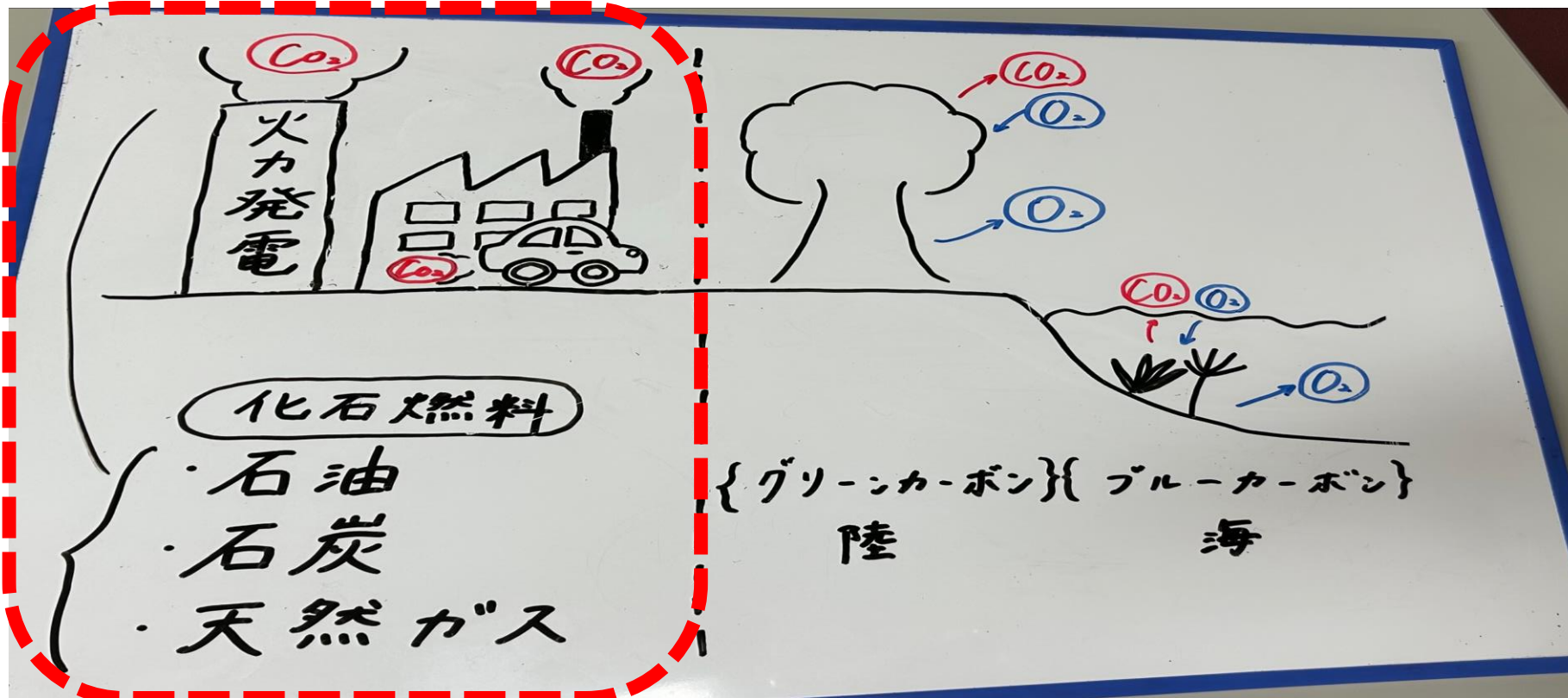
カーボンニュートラル(脱炭素)

2種類のカーボンニュートラル、両方とも個人での実施は難しい
周南公立大学も大島干潟にブルーカーボンドレジットとして支援をしているが、個人で資金支援やブルーカーボンの維持活動にはハードルが高い



現状分析と課題

現在、CO₂の増加が問題になっている。しかし、単に増えているわけではない。企業や消費活動で地中にある化石燃料を使用し、それによってCO₂が大気中に排出されるという現状がある。課題は大気中の二酸化炭素量を増やさないことである。カーボンニュートラルの実現を目指していく。



目的

ブルーベリーの木を植えて二酸化炭素を閉じ込め、大気中の二酸化炭素を減らす「ブルーベリーカーボンプロジェクト」で、できる範囲は限られている

このプロジェクトは大学生はもちろん家族で楽しめる取り組みとして、未来に向けた意識改革を目的とする

渋沢栄一氏の「一滴が大河に」を掲げて取り組む



内容

SDGs推進宣言を掲げている大学として



学外

活動/周南地区の企業や個人を対象にグリーンカーボンの取り組みとしてブルーベリーの木を植え、育てる活動を推進する。

成果/SDGsに関心を持つ人材育成とブルーベリーの木の販売価格に100円程度上乗せし、そのお金をネパールで教育やゴミ問題などに取り組む「カラバス」様の活動に寄贈する。

学内

活動/SDGsアンバサダーの学内での取り組みとして、ブルーベリーを地域共創センターの横にある花壇に植え、シンボルツリーにする。

成果/学生が大学でブルーベリーを育てる事でSDGs推進大学で学ぶ学生の意識を育てる。



※花壇の維持管理はSDGsアンバサダーがする

学内新入生記念植樹





ブルーベリーを選んだ理由



海のブルーカーボンと陸のグリーンカーボンの両方をイメージさせることができる

実がなるので、家族や友達など一緒に楽しむことができる。

これからの高齢化社会に
適している
《鉄分など栄養豊富》

育てるのが簡単



計画例/地域に密着した造園業及び園芸店など関連企業に協力を依頼し、ブルーベリーカーボンプロジェクトのブルーベリーの木をプロジェクト用にして販売を頼む。地域団体などを協力団体にすることで地域で活動の輪をひろげていく。広報にかけ、活動の周知を図る。